

朝日新聞への署名提出 報告記者会見

英語版「慰安婦性奴隷」の
印象操作を中止せよ！

朝日新聞英語版の慰安婦印象操作中止を求める有志の会
呼びかけ人 ケント ギルバート、山岡 鉄秀

朝日の誤報は過去のものではない。
今も形を変えて続けられている。



それは英語の世界だけで
展開される
海外向け印象操作である。



同じ記事なのに、英語版の方が長い。
日本語版には絶対に使われない
同一のフレーズが
英語版では必ず使われている。



英語版にだけ必ず使われるフレーズ その1



comfort women, who were **forced to provide sex** to Japanese soldiers before and during World War II

第二次大戦前、および大戦中に、日本兵にセックスの供与(性行為)を強制された慰安婦



英語版にだけ必ず使われるフレーズ その2



Comfort women is euphemism for women who were **forced to provide sex** to Imperial Japanese troops before and during the war. **Many of the women came from the Korean Peninsula.**

慰安婦とは戦前および戦中に日本軍部隊にセックスの供与(性行為)を強制された女性達の婉曲表現である。女性たちの多くは朝鮮半島出身であった。



「強制連行は、そういった事実はないと認めた。しかしいわゆる慰安婦は、自らの意志に反した形で、日本軍兵士の性の相手をさせられたという広い意味での強制性はあった」

「悪い業者に騙されて慰安所で働かされたり、慰安所にとどまることを物理的、心理的に強いられていた場合」(1997)

”Forced to provide sex”は広義の強制性か？

注意！

Forced to provide sex は強制売春を意味しない



× Prostitution (売春)

× Brothel (娼館)

これらの言葉は使われていない。

Women who were forced to provide sex....

対価なしにSexを強要される存在

それは
性奴隷である。



英語話者はどう受け止めるか？



朝日は、「性奴隷」という言葉の使用は避けながら、「慰安婦は強制連行された性奴隷」という印象操作を英語で行っている。



朝日新聞木村元社長社員全員宛てメール「揺るがぬ決意で」

2014年8月28日



「私は2年前に社長に就任した折から若い世代の記者が臆することなく慰安婦問題を報道し続け、読者や販売店ASAの皆さんの間にくすぶる漠然とした不安を取り除くためにも、本社の過去の慰安婦報道にひとつの『けじめ』をつけたうえで、反転攻勢に打って出る態勢を整えるべきだと思っていました」



「女子挺身隊が慰安婦として動員されたとの印象を与えたとしても、70年以上も前の事実であり、これによって現在の日本人の社会的評価が低下するとはいえない」



日本語記事と英語記事の比較



タイトル

大統領府が談話、世論沈静化図る 日韓合意受け2度目
(2016年1月1日)

日本語版

「大統領府は(大使館前の)少女像に関しては、移転を事前に約束したとの「合意は無い」と明確に否定した。」

英語版(日本語訳)

「大統領府は、**第二次大戦前および大戦中に日本帝国軍人にセックスの供与を強制された慰安婦を象徴するために建てられた像の移転を約束したとの「合意は無い」と語った。」**

タイトル

「強制連行は確認できず」政府、国連委に答弁書 慰安婦問題
(2016年2月2日)

英語版(日本語訳)

慰安婦強制連行の虚偽は日本政府がありとあらゆる資料にあたって出した結論であると述べたというパラグラフの後に、突然次の文が挿入されている。

「慰安婦とは、第二次大戦前および大戦中に日本軍部隊のためにセックスの供与を強制された女性たちを意味する。その多くは、1910年から1945年まで日本の植民地だった朝鮮半島からだった。」